No.54 平成30年5月9日発行：徳島県吉野川市議会

吉野川市 議会だより

桜の向麻山　　市村　茂樹（鴨島町）

目次

議案の審議から 2
代表質問 6
一般質問 9
本会議討論 13
市民のページ 14
クイズ 15
あとがき 16

審議から

3月議会では、条例案19件、予算案14件、その他4件が提案され、審議されました。

総務常任委員会

▼吉野川市公会堂条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について

▼災害による市税の減免に関する条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例制定について

▼平成29年度吉野川市一般会計補正予算（第6号）について

▼平成29年度吉野川市国民健康保険特別会計補正予算（第4号）について

▼平成29年度吉野川市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について

▼平成30年度吉野川市国民健康保険特別会計予算について

▼平成30年度吉野川市後期高齢者医療特別会計予算について

▼平成30年度吉野川市一般会計予算について

質問

女性スキルアップ講座は、どのような事業で対象者の予定人数は。

企画財政課長

意欲のある女性の活躍を後押しするために、平成29年度から実施している事業で、市内企業に勤務する女性職員や起業志望のある市内在住の女性を対象に、1回あたり15名程度、3回開催で45名程度を予定している。

質問

浄化槽設置補助金および生ごみ処理機設置事業補助金の実績と新年度の予定は。

また、生ごみ処理機設置事業補助の継続と周知方法は。

環境企画課長

浄化槽設置補助は、平成30年度の新設補助26件、転換21件の計47件分の予算を計上している。

平成29年度実績は、現時点で新設16件、転換19件の計35件である。

生ごみ処理機設置事業補助は、平成30年度予算で電動式生ごみ処理機9基、生ごみ堆肥化容器（運搬式）10基、生ごみ堆肥化容器（設置型）30基の計49基の予算を計上している。

平成29年度実績は、現時点で電動式生ごみ処理機7基、生ごみ堆肥化容器（運搬式）3基、生ごみ堆肥化容器（設置型）17基の計27基である。

また、生ごみ処理機設置事業補助は、ごみ減量化の一環であるので今後も継続していきたい。

周知方法については、ホームページへの掲載と、年に1回8月の広報誌に掲載している。今後、導入するごみアプリでの周知や広報誌への掲載回数を増やすなど検討していきたい。

平成30年３月議会定例会
会期：平成30年２月26日～３月20日

議案の

文教厚生常任委員会

▼吉野川市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例制定について

▼吉野川市立学校設置条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市立中学校寄宿舎条例を廃止する条例制定について

▼吉野川市立幼稚園保育料等徴収条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市立保育所条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市立認定こども園条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

▼吉野川市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

▼平成29年度吉野川市一般会計補正予算（第６号）について

▼平成29年度吉野川市介護保険特別会計補正予算（第４号）について

▼平成30年度吉野川市介護保険特別会計予算について

▼吉野川市介護保険条例の一部を改正する条例制定について

質問

第７期介護保険事業計画の介護保険料算定において、給付見込み額を158億9，569万1，000円とした理由および第１号被保険者の負担割合が１％増の23％となった要因と今後の見通しは。

介護保険課長

給付費の算出については、今後、進む少子高齢化および地域における社会資源、介護提供施設等を踏まえ、どの程度の介護給付費が必要かを推計し算出した額となっている。

また、第１号被保険者の負担割合の増加については、65歳以上の人口増加と40歳から64歳までの人口減少を踏まえた上で、国から１％増の方針が出されたためであり、65歳以上の第１号被保険者負担割合の今後の見通しは、介護サービスを利用される方は増えていくと想定できるので、負担割合は増加すると考えられる。

▼平成30年度吉野川市一般会計予算について

質問

中央美化センター跡地多目的運動場は、ソフトボールも使用することができるのか。また、観客席の設置は。

教育次長

ソフトボールに使用する場合は、マウンドやバッターボックスにソフトボール用のマットを敷いて行うことになり、観客席は250席程度設置する予定としている。

平成30年３月議会定例会
会期：平成30年２月26日～３月20日

議案の審議から

産業建設常任委員会

▼吉野川市道路に設ける道路標識の寸法を定める条例の一部を改正する条例制定について

▼平成29年度吉野川市一般会計補正予算（第６号）について

▼平成29年度吉野川市公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）について

▼平成29年度吉野川市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）について

▼平成30年度吉野川市水道事業会計予算について

▼市道路線の認定について

▼財産の取得について

▼平成30年度吉野川市一般会計予算について

質問

梅酒まつりの10周年記念事業として、過疎地域自立促進特別イベント事業を行うとのことだが、11回目以降も続ける予定は。

商工観光課長

10周年の節目事業として企画しており、梅酒まつりは11回目以降も続ける考えでいる。

質問

徳島東部地域ＤＭＯ事業の内容について、ハード面ではどのようなことができるのか。

商工観光課長

地方創生において観光振興は、交流人口を拡大させ、経済効果をもたらし、地域活性化の原動力として期待されている。

取り組みをさらに推進するため、阿波市との２市による広域観光体制から、徳島市・鳴門市・小松島市・吉野川市・阿波市・勝浦町・上勝町・佐那河内村・石井町・神山町・松茂町・北島町・藍住町・板野町・上板町の東部15市町村と民間企業25社で構成する徳島東部地域ＤＭＯに参加する。

ハード事業ではなくソフト事業で、旅行者目線に立ち、着地旅行型商品をＤＭＯを通じて旅行会社に売り込むという事業である。

▼平成30年度吉野川市公共下水道事業特別会計予算について

▼平成30年度吉野川市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について

▼平成30年度吉野川市農業集落排水事業特別会計予算について

質問

下水道事業の接続率は。

水道部次長

平成29年３月31日現在、鴨島処理区80.72％、川島処理区43.19％、川田処理区48.03％で、少しずつではあるが接続率は上がってる。

ここが聞きたい 代表・一般 質問

3月議会定例会で8名の議員が代表・一般質問を行いました。●の質問を中心に取り上げました。

代表質問

①河野利英

○少子化対策について
○災害に強いまちづくりについて
●森林、林業行政について
○外国語教育について
○有害鳥獣対策について
○中山間地域交流拠点整備計画について
○休校となる小学校の活用について

②桒原五男

○合併特例債及び基金について
○保育士の現状について
○移住・定住関連施策について
○ふるさと納税について
○学校における部活動について
○市道の予算について
●地域経済の活性化について

③山添純二

●学校再編について

一般質問

④近久善博

●合併特例債について
○鴨島環境センター解体事業について
○向麻山公園道について

⑤阿佐勝彦

●改正労働契約法の運用について
○「住宅団地」改修費補助制度の活用について
○雨水排水路の延長方針について
○市道の管理について

⑥相原一永

●公共インフラ整備について
○地震発生時の対策と対処について
○子育て支援について

⑦岡田光男

○今後の財政見通しについて
●徳島病院の東徳島医療センターへの統合について
○鴨島東部地区の学校再編について
○各種団体が行う事業への後援について
○木造住宅耐震改修支援事業の拡充と住宅リフォーム助成制度の創出について

⑧枝澤幹太

○中心市街地活性化の推進について
○小中学校の教職員の負担増について
●近久児童館について

代表質問

河野利英（薫風会）

森林、林業行政の本市の取り組みは

（質問）

森林の整備と林業の活性化を図っている

（答弁）

◎質問

原木価格の低迷で林業の現状は厳しいものがある。森林を維持管理していくためには、さらなる森林政策が必要であると考えるが、本市の森林、林業の現状と政策は。

また、国では森林の公有林化政策や森林環境税、森林環境譲与税の創設が予定されているが、本市の対応は。

○三木産業経済部長

本市の森林は、植林後60年になる山林が最も広い面積を占め、伐採期を迎える森林が多い状況だが、伐採が行われず、森林の更新が進んでいないのが現状である。

市の政策としては、林道・作業道の整備を進めるほか間伐事業等に補助金を上乗せするなど森林の整備と林業の活性化を図っている。

また、国の政策として、林野庁が導入をめざしている新たな「森林管理システム」では、所有者に適切な管理を促すため、所有者自ら森林管理できない場合には、市が管理の委託を受け、他の林業経営者に再委託をする。再委託できないものは市が管理することとされ、市における役割と責任が拡大することが想定される。

森林の公有林化については、今後課題や問題点などの研究を進めていく。

森林環境譲与税については、市が主体となる森林管理に充てることになる見込みで、実施にあたっては、国から示されるガイドラインに沿い、本市の実情に合う施策の導入等について検討を進めていく。

［その他の質問］

◎質問

安心して子どもを産み、育てることができる環境づくりの取り組みは。

○政策監

「来て観て住んで事業」等の事業を継続するとともに、新たな施策の予算を計上し、より一層支援の充実を図る。

◎質問

大規模災害発生時における市民の「安全・安心」への取り組みは。

○防災局長

現在建設中の西消防署・消防防災活動センター（仮称）を有効利用していきたい。

◎質問

小・中学校の外国語教育が変わることへの本市の対応は。

○副教育長

英語教育のさらなる充実と推進のために、「吉野川市小中連携英語教育研究会」の取り組みを今後も支援していきたい。

◎質問

有害鳥獣対策について、ハンターの養成やジビエ処理加工施設設置への本市の考えは。

○産業経済部次長

捕獲班の実働人員確保に課題があること、本市もジビエに対するニーズや関心があることは認識している。今後も引き続き、県内外の事例等を踏まえながら検討していく。

◎質問

中山間地域交流拠点整備計画の策定状況は。

○産業経済部長

種野小学校を活動拠点施設として進める。

◎質問

休校となる小学校の利活用について、地域審議会等の立ち上げは。

○副教育長

来年度早々に検討組織を立ち上げるべく、準備を進めていきたい。

平成30年３月 議会定例会

桒原五男（志誠会）

中心市街地活性化事業の進捗状況は（質問）

吉野川市アリーナ・交流センター（仮称）の工事を平成30年度より着手する（答弁）

◎質問
地域経済の活性化について、
①中心市街地活性化事業の進捗状況は。
②ポイントカードを活用した行政と民間の連携は。
③空き店舗・起業家支援の現状は。
④観光ＰＲの取り組み状況は。
⑤観光協会の実情は。

○小澤建設部次長
①吉野川市アリーナ・交流センター（仮称）の工事を平成30年度より着手し、平成31年度末の完成に向け努力していく。

○三木産業経済部長
②「行政ポイント」事業は、地域経済を活性化するツールの一つであり、今後、調査・検討したい。
③空き店舗の対策となる「商業地域活性化支援事業」の実績は昨年度、本年度とも1件で、現在1件が申請・開業準備中である。
起業家・創業支援として、今年度から新たに開始した「創業支援資金保証制度」の実績は3件で、「創業支援事業計画」における相談支援実績は延べ39名だが、証明書の発行実績はないので、引き続きＰＲ等に努めていく。
④地域観光振興に高校生と地域が連携することにより双方に良い刺激となる。まずは高校生を対象としたアンケート調査を実施する等、意見を反映できる仕組みの導入について検討したい。
⑤観光協会の現体制も含めた見直しが必要な時期と考えている。

［その他の質問］

◎質問
合併特例債の残額と基金の取り崩し状況は。

○政策監
平成29年度末までの発行見込み額が166億390万円で、平成30年度以降発行可能額は約47億円である。
基金については、本年度決算から基金を取り崩しての財政運営となる。

◎質問
保育士の人数および待遇、また民間の保育士に対する補助は。

○健康福祉部長
正規職員は42名、臨時・嘱託職員45名であり、賃金は段階的に改善し本市と阿波市が最高額となっている。
また、民間保育士への補助は、運営費における賃金改善として、これまでに約８％の処遇改善を行っている。

◎質問
空き家バンクについて、民間業者との連携は。

○産業経済部長
民間と連携し、利用者の利便性等も十分に考慮しリニューアルしたい。

◎質問
空き家改築の助成は。

○建設部次長
県の移住者に向けたリフォーム支援事業の活用等も含め、検討したい。

◎質問
ふるさと納税返礼品の開発状況は。

○産業経済部長
意欲的な提案があれば前向きに相談に応じたい。

◎質問
学校の部活動指導員および試合の送迎の現状は。

○副教育長
今年度は、市内４中学校で15名がボランティアで指導にあたり、送迎は公共交通機関の利用を推奨している。

平成30年３月 議会定例会 代表質問

山添純二（公政・郷土・麻植会）

学校再編の現状と今後の取り組みは（質問）

地域や保護者の方々とともに、子どもたちの教育環境整備を考えていく（答弁）

◎質問

現在、全国的に少子高齢化が深刻な社会問題として取り上げられている。

今年度生まれた子どもが就学する平成35年度の小学校の全児童数は、1，620人の見込みであるが、これは5年前の全児童数より400人余り少なく、10年間で約25％の減少となり、小中学校はますます小規模化することが予想される。

平成28年4月1日に施行された「学校教育法等の一部を改正する法律」によって、義務教育学校が制度化された。

文部科学省の調査によると、現在、全国で48校の義務教育学校が開校しており、増加の傾向にある。

この義務教育学校とは、1人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、小学校と中学校の枠を取り除き、9年間の義務教育を見通した学校教育目標を設定して系統性を確保した教育課程を編成し、実施する学校である。教育課程では、9年間を「4・3・2制」や「5・4制」のように柔軟な学年の区切りを設定することができる。

このため、「中1ギャップ」が解消されるとともに不登校やいじめの減少、学力調査などの平均正答率の上昇、児童生徒の規範意識の向上、異年齢集団での活動による自尊感情の高まりなどのメリットがある。

逆に、小中両方の教員免許を所持している教員が必要であること、9年間同じ学校で生活することによる人間関係の固定化などのデメリットもある。

本市においては、平成25年度には学校再編計画の素案が公表された。本市学校再編計画の先駆けとして、川田・美郷地区の学校再編が決定し、今春4月には、高越小学校・こども園が開校・開園する。

そこで、義務教育学校や小中一貫校などの特色ある学校の設立を含めて、本市の学校再編の現状と今後の取り組みは。

○藤野井副教育長

本市における児童・生徒数は、今後5年間、毎年30名から40名少なくなっていくと推測される。

こうした現状から、少人数の学級や学校のメリットやデメリットを考慮していく中で、小中一貫校を含め、子どもたちの教育環境をどのように整備していくのかという議論を通して学校再編計画（素案）を公表した。

学校再編計画（素案）においては、第1期計画を概ね10年として、児童数の減少傾向が大きな川田・美郷地区と鴨島東部地区において学校再編を進めるべく、地域やPTAへの説明会を開き、理解いただけるよう努めてきた。

川田・美郷地区においては、早々の決定をいただき、この4月から高越小学校が開校される。

鴨島東部地区の学校再編においても、今後の児童数の推移を注視しながら、学校再編計画（素案）をもとに地域や保護者の方々とともに子どもたちの教育環境整備を考えていく。

高越小学校

平成30年３月 議会定例会 一般質問

近久善博

合併特例債を今度どのような事業に使うのか

（質問）

都市再生整備事業等に最大限に活用

（答弁）

◎質問

平成31年度に本市の合併特例債は、発行上限額２１３億１，１９０万円に達するが、主にどのような事業に発行してきたのか。

また、今後どのような事業に使うのか。

○日下政策監

これまで充当してきた事業については、高越こども園・高越小学校整備、学校給食センター整備、山川中学校改築、庁舎東館・山川・美郷支所等の整備、徳島中央広域連合本部・東署建設、運転管理センター等整備などのほか、道路新設改良や公共施設耐震改修等に充当している。

平成30年度は、都市再生整備事業に約11億６，０００万円、中央美化センター跡地・多目的運動場整備事業に約５億円、鴨島東部地区認定こども園整備事業に約３億８，０００万円などの発行を予定している。

平成31年度も都市再生整備事業などに残り22億円の財源を最大限に活用していく。

◎再問

地方交付税の削減に伴い、平成31年度以降の財政運営は困難が予想されるのでは。

○河野副市長

合併後、身の丈に合った施設整備を進めるとともに合併特例債を有利に使い、インフラ整備を進めてきた。

ここ２～３年は起債額が増加するが、今後も年度を平準化し行政改革に努めることで運営は可能と考える。

［その他の質問］

◎質問

鴨島環境センター解体事業をどのように進めていくのか。

○環境局長

現段階での工期は、平成31年度半ばまで要するものと考え、６月議会に提出予定の議案承認後、その内容に基づき再度地元説明会を開催する予定である。

鴨島環境センター

会議録をご覧ください

議会だよりに掲載された事柄以外の質問や答弁の内容を吉野川市のホームページ内に掲載していますのでぜひ一度ご覧ください。

吉野川市議会会議録　検索

平成30年3月議会定例会 一般質問

阿佐勝彦（あさかつひこ）

改正労働契約法の周知は

（質問）

状況に応じて周知を検討したい

（答弁）

◎質問

改正労働契約法ができて本年4月1日で丸5年を迎える。有期雇用で5年を過ぎた一部の当市関係団体の臨時職員は、該当することになるが、関連事業体等への指導や周知は。

また、本市の嘱託員設置要綱で定められている人員確保の実情および嘱託職員や臨時職から法律の周知は行っていない。

民間事業体へは、指定管理者等であれば該当するので状況に応じて周知を検討したい。

本市で任用している嘱託職員については、123人の定数となっている。人員確保については、広報、新聞、ハローワーク等で広く募集を行うとともに待遇改善

◎再問

嘱託職員への雇い止めなどはあるのか。突然「雇用打ち切り」とならないようにトラブルを発生させないための配慮は。

○吉永総務部次長

嘱託職員が雇い止めなどになる場合は、事業が廃止され職が必要となくなった、自己都合により継続を希望しなかった等の場合が想定される。

トラブルを発生させない配慮については、報酬の額、休暇制度、また、1年ごとに再度任用がされても継続して5年を超えることはできない等の説明を行い、了解を得た上で任用を行っている。

［その他の質問］

相原一永（あいはらかずなが）

費用抑制のため市直営の橋梁点検を行ってはどうか

（質問）

職員のスキルアップを図っていきたい

（答弁）

◎質問

市が管理する橋梁数または橋梁の長さにもよるが、1橋あたりの点検費用は。

○小澤建設部次長

市が管理する現在の橋梁数は672橋で、1橋あたりの点検費用については、平成27年度が20万円程度、平成29年度が30万円程度と

橋梁点検は未来永劫に続くが、費用を抑える考えは。

○小澤建設部次長

橋梁数は、橋梁台帳をベースにして点検により現場確認した数値で、5m未満の橋梁も点検計画に入っている。

年度毎の点検数と費用は、平成27年度が180橋で約3，m未満の橋梁は点検業務のサイクルが終了した時点で、そのデータを参考にコスト縮減を図れるよう研究・検討していく。

◎再々問

橋梁台帳に載っていない橋梁はないのか。

また、職員のスキルを上げて直営点検をしてはどうか。

○小澤建設部次長

赤線延長上に短い橋が架設している場合が想定されるが、このような橋は把握できていない。

橋梁直営点検については、セミナー等に参加して個人のスキルを上げるとともに先進地に出向き、意見交換等を積極的に図っていきたい。

員の雇用に関する新たな条例、規定等を検討する考えは。

○吉永総務部次長
地方公務員の採用は労働契約ではないと考えられ、非常勤職員や臨時職員は労働契約法の適用を受けないことなどに努めている。
新たな条例、規定等については、平成32年4月から会計年度任用職員制度が施行され、多くの臨時・嘱託職員が会計年度任用職員へ移行すると考えられるので、改めて条例等の整理、検討が必要と考えている。

諏訪地区の雨水排水路延長の工期と効果は。

○建設部次長
工期は予定より数年程度延びると予想され、効果は工事が完成して、冠水状況等を確認し対策を検討したい。

なっている。

◎再問
市が管理している橋梁数の調査方法および5m未満の短い橋梁の対応は。
また、平成27年度・29年度別の点検数と費用、橋梁点検の依頼先は。

600万円、平成29年度が216橋で約6,500万円となっており、点検はコンサルタント業者に依頼し、2年とも同じ業者が落札している。
費用抑制については、長い橋梁等は従来通り業者に発注し、5

[その他の質問]

◎再問
大規模地震発生時、庁舎の窓ガラス等の破損への対策は。

○防災局長
飛散防止フィルムを貼る検討をしたい。

岡田光男（おかだみつお）

市長は徳島病院の存続を関係機関に要請するべき（質問）

引き続き地域医療に貢献していただけるよう要望していく（答弁）

◎質問
徳島病院を東徳島医療センターに移転・機能統合する「基本構想」が発表された。
両病院合わせた病床数を100床減らすことなどに、市民からは驚きや戸惑いの声が上がっている。
地域から大きな病院がなくなることで、地域医療の空洞化が危惧されるが。

○大塚健康福祉部長
今後は、移転による影響を注視し、市民へのサービスの低下を招くことのないよう、現在ある地域医療体制の充実に努めていく。

◎再問
本市では企業誘致に力を入れているが、病院がなくなれば、雇用や交流人口も減少し、地域経済へ大きなマイナスとなる。
また、16億円もかけた最新の病棟を4年後に閉鎖するとは到底考えられない。
さらに、移転先の東徳島医療センターは、ハザードマップによると吉野川などの増水時に5m以上の浸水と予測されており、大規模災害時の医療を考えれば、浸水が予想される場所に移転すべきではない。
南海トラフ地震や豪雨による大洪水から人の命を守るためには、医療の集中ではなく医療の分散や、高台にある施設の存続を関係機関に要請するべきではないか。

○川真田市長
引き続き地域医療に貢献していただけるよう「独立行政法人国立病院機構」に要望していく。

[その他の質問]

◎質問
社会資本整備総合交付金を活用し、リフォーム助成制度を創出する考えは。

○建設部次長
交付金が充当できるか調査を行い、助成に向けて検討していく。

◎質問
今後の財政見通しは。

○政策監
市債残高は平成31年度、公債費は平成34年度にピークを迎えるが、それ以後は順次減少していく見込みである。

◎質問
鴨島東部地区学校再編計画を見直す考えは。

○副教育長
保護者の声を十分に聞き、最良の教育環境整備を第一に考えながら取り組む。

平成30年３月 議会定例会 一般質問

枝澤幹太

近久児童館の運営における今後の対策は

（質問）

指定管理者の応募資格を拡大し再募集して対応する

（答弁）

◎質問

現在、近久児童館には、学島、川島両小学校区の児童57名の登録があり、放課後いきいきとして通っている。1年を通して様々な行事や工夫をこらした自由遊びの中で学校では学べないことを学ぶことができ、直近の1月には延べ利用者353人、1日当たり14人前後の来館者があった。

指定管理期間は当初平成31年3月末までの契約だったにも関わらず、12月に急な児童館職員の退職があったので、平成30年3月末までとなり、保護者はもとより児童からも職員との別れを残念に思う気持ちが伝わってくる。

このように地域の児童、保護者が利用し信頼されてきた、心のよりどころとなっていた施設が休館となることに対して、今後どのように対処していくのか。

○大塚健康福祉部長

12月に指定管理者を募集したが応募者がなかったので、3月14日から再募集を予定している。

児童館運営は資格職員の人材確保や経営ノウハウ、高い水準でのサービスの維持・向上が求められる。再募集の際には応募資格を拡大し、多くの団体が参加できるよう対応していく。

［その他の質問］

◎質問

アリーナの活用について、健康・スポーツ機能の充実と強化にどのように取り組むのか。

○教育次長

床仕様は安全性や競技性、避難所等に使用できるスポーツ用長尺弾性シートを導入するとともにトレーニング室等を計画するなど、あらゆる年代層の方の健康維持・増進を図っていきたいと考えている。

◎質問

総合型地域スポーツクラブ設立についてどのように取り組むのか。

○教育次長

「吉野川市総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」を発足し、6名の委員がアシスタントマネージャー資格を取得する見込みで、今後2年間は、クラブ設置の広報活動や会員の確保にも努めていく。

本会議・委員会を傍聴しませんか

皆さんが選んだ議員の活動や、行政がどのようなことを行っているかを知っていただくために、議会の本会議などの傍聴をしませんか。
どなたでも傍聴できます。
お気軽にお越しください。

TEL（0883）22-2241

本会議討論

議第9号 吉野川市介護保険条例の一部を改正する条例制定について

◇反対討論

岡田　光男

今年度は3年に1度の介護保険事業計画を策定する年で、第7期の保険料基準額が月額715円、年額8,600円引き上げられる。

年金は下がる一方だが、年金から天引きされる介護保険料は上がる一方で、年金生活者からは「これ以上払うのは無理、もっと引き下げてほしい。」という切実な声を聞く。

年金が年18万円以上の人は年金から天引きされ、18万円以下は普通徴収となるが、払えない人もいる。

また、本市では不能欠損や収入未済額が、過去3年間増え続けている。

これ以上保険料が高くなると、ますます払えない人が増えると予想される。

引き上げに反対すれば、介護保険制度が運営できなくなるとも聞くが、私たち議員の仕事は、市民の声を代弁し、同時に議案を市民の立場でチェックすることである。

国のつくった介護保険制度を住民にとってより良いものにするため、地方から声を上げるという意味でも、今回の条例改正による保険料の引き上げには反対する。

◇賛成討論

河野　利英

この度の介護保険条例の一部改正では、「第1号被保険者」の基準保険料が月額715円の増額となっている。

これは、新たな施設やサービスの導入などを抑え、現状でのサービスの充実を図りながら、保険料をできるだけ抑制しつつ安定した財源を確保すること等のバランスを考慮した基準額の設定となっている。

増額となった要因として、高齢者が増加し現役世代が減少している世代間格差を是正するため、「第2号被保険者」の負担割合が第6期計画から「1%」軽減されたことで「第1号被保険者」の負担が「1%」増加したこと、また高齢化の進行により、サービス利用者の自然増や重度化が想定されること等があげられている。

この度の増額について、不安や不満などの意見もあるが、必要な保険料が確保できていないことにより財源不足で、介護保険事業の運営が圧迫され、サービスの低下につながることは、避けなければならない。

介護保険制度は、将来にわたって適切なサービスが提供される体制であることが重要と考える。よって、原案に賛成する。

※賛成には「○」、反対には「×」、退席には「－」、欠席には「欠」で表示。

採決	議案名	塩田智子	岸田益雄	川村辰夫	川村洋樹	細井英輔	河野利英	工藤俊夫	桒原五男	枝澤幹太	近久善博	福岡正	原田由一	田村修司	増富義明	相原一永	山添純二	岸田秀樹	藤原一正	阿佐勝彦	岡田光男	採決結果
議第9号	吉野川市介護保険条例の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	議長	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	可決
議第29号	平成30年度吉野川市介護保険特別会計予算について	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	可決

高齢者活用で生涯学習市に

鴨島町　美馬　益夫

2月25日付徳島新聞の認知機能検査強化で75歳以上の免許返納最多の記事を読んだ。

自身も昨年10月に75歳に達し、免許証の更新手続きを終えた。

その過程での認知症テストでは、問題なしの点に僅少届かず衝撃を受け、実技運転でも、前方確認と車庫入れに注意点があった。

現在何十年来続けている生涯学習の受講の場は、徳島市や板野町にある徳島大学や文化の森、県教育委員会の総合教育センター等10指に余り、資格認定に必要な修了証書等の授与を受け、心身の健康に役立ててきた。それがマイカー無しでは通学に無理がある。公共的交通機関が利用できれば好都合であるが、それには時間的・経済的制約があり過ぎる。

ただ、幸いなことに在住市では、最近中心部に市活性化のため、麻植協同病院跡地にアリーナと図書館の工事が進んでいる。

それが完成すれば、既存の文化研修センターや公民館等で実施されている講座が開催できる。

また、他市町では県立総合大学校とタイアップして、必要単位の取得でとくしま学博士等の資格が得られ、講座の講師として勤められる。

能力ある高齢者の活用と施設の活用策で、全国に冠たる生涯学習市に脱皮して欲しい。

柿原の堰

鴨島町　三谷　敏行

吉野川は日本一の川中島、善入寺島の南岸を流れて、中洲によって本流が分かれ、吉野川市鴨島町と阿波市吉野町を結ぶ阿波中央橋に至って、本流がまとまり北岸寄りに流れを変える。

中洲によって再び本流が分かれ、そして合流し、落差5メートルの柿原の堰を白波を上げ音を立てて流れる。

柿原の堰は第十堰に次ぐ大堰で、堰長約790メートルあり、農業用水の取水と洪水時の土砂流出防備、護岸のため、1919年（大正8年）に完成した固定堰である。

川柳の柔らかい羽毛のような新芽が芽吹いて、春が膨らみかけ、菜の花が咲き吉野川に春が巡って来る。

柿原の堰近く、堤のそばに置かれたかんどり舟に菜の花が寄り添うように咲き、春風に揺れて水面のさざ波を思わせるようになびく。

吉野川は青を湛えて流れ、日一日と色合いを深めて、春の気配を漂わせる。かんどり舟は、夏の鮎漁に備えて佇むように見えてくる。

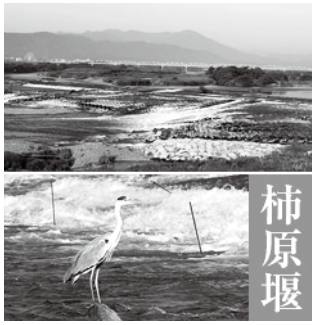
堤は朽葉色から萌黄色を覗かせ始め、土筆が背丈を伸ばして、春を囁く。蒲公英の花が咲き、すみれが彩りを添え、やがて緑一色に覆われて春の広がりを見せる。

川辺には菜の花が咲き揺れ、釣り人の姿が見え始める。鳶が大空を悠然と旋回し、川面に視線を凝らす。

柿原の堰の目の前まで迫り、増水時、しゃがんで西方面を眺めれば、白波が飛沫を上げて、高越山（阿波富士）を背景に、北斎の冨嶽三十六景「神奈川沖浪裏」を想像させる絵画が見えてくる。

美しいトラス橋の阿波中央橋は幾つも円弧を描いて、山の連なりを見せるかのように両岸を結ぶ。

変わらない吉野川の流れを眺めていると、心は安らぎ、どこまでも広がって見える自然の大らかさに気が漲ってくるような感じがする。



クイズ

■山川地区の地名です。読みを答えてください。

①翁喜台　②恵下　③木綿麻山
④榛木原　⑤槻原　⑥鼓山
⑦赤刎　⑧高頭

◎正解者の中から抽選で10名様に吉野川市ブランド認証品を進呈します。
◎応募要項　はがき、またはFAXに答えと郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、議会事務局へお送りください。
応募の際に「チョットひと言」添えてみませんか。
◎送り先　〒776－8611　吉野川市議会事務局
TEL(0883)22－2241
FAX(0883)22－2242
◎締切日　平成30年6月30日(消印有効)
※次号は美郷地区の地名を予定しています。ぜひ応募してみてください！

チョットひと言

☆この春、上の孫がピカピカの小学1年生に！　下の孫が幼稚園の年少に！
毎日孫達の成長が楽しみで日々暮らしております。（鴨島町　佐藤さま）
☆暖かくなったら早く草花の手入れをしたいです。（川島町　後藤さま）
☆はじめてクイズに応募しました。難しかったです。（山川町　細川さま）

（前回の解答）

①釿原（ちょうなばら）　②湯吸（ゆす）　③鳶ケ巣（とびがす）
④鍛治屋敷（かじやしき）　⑤下女辻（げじょのつじ）　⑥日和女（ひわめ）
⑦唐戸（からと（かろうと））　⑧峯八（みねはち）

【応募総数】23通

おしらせ

平成29年度
政務活動費
収支報告書は
8月初旬に
ＨＰ掲載予定です
ご覧ください

行政視察受入状況

吉野川市では、全国の議会関係者からの行政視察を積極的に受け入れています。

●平成29年10月27日
千葉県四街道市議会　都市環境常任委員会
議員8人　随行3人　「美郷ほたる館について」

募　集　要　項

表紙の写真 募集

テーマ　吉野川市で撮影した
季節の風景や祭り、行事など。

規　定　モノクロおよびカラープリント
2L判～四切・W四切組
写真またはデータも可（3点まで）
住所・氏名・電話番号・題名を明記。

締め切り　平成30年６月30日（消印有効）
発行は８月です。季節感のあるものをお願いします。

その他　作品の返却は行いません。採用された作品の使用およびトリミングなど加工については、吉野川市議会広報特別委員会に帰属することをご了承ください。

応募先　〒776-8611
吉野川市鴨島町鴨島115番地1
TEL（0883）22－2241
FAX（0883）22－2242

市民の皆さんの声を掲載

市政についての苦言やアイデア、趣味や人生観など多岐に渡って文章を募集します。ファックスでも結構です。

…規　定…

●400字詰原稿用紙2枚以内
住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記

●**締め切り**
平成30年６月30日（消印有効）

＊投稿多数で掲載できない場合は、ご容赦ください。
校正などは、吉野川市議会広報特別委員会で行います。

…あて先…
〒776-8611
吉野川市鴨島町鴨島115番地１
TEL（0883）22－2241
FAX（0883）22－2242

あとがき

3月議会に提出された今年度の一般会計予算総額は、213億6,600万円で市発足以来最大予算であった。

今後、麻植協同病院跡地に設けるアリーナには、屋内競技場や子育て支援センター、図書館等を併設するほか、鴨島東部地区認定こども園、多目的運動場の整備、鴨島環境センターの解体なども予定している。

これらの事業が、合併特例債のある期間内で完成することを願うところである。

さて、本号の表紙を飾っている向麻山公園は高さ91.8m、面積30haで、頂上には芝生広場やステージ、裾野には児童公園やテニスコート、ゲートボール場等があり、市民の憩いの場となっている。

春には裾野から頂上までしだれ桜、吉野桜、八重桜が咲き乱れ、百花繚乱で非常に美しい眺めであり、学校の遠足やデイサービス、また市内外から多くの人が花見に来られる桜の名所となった。

この地が末長く市民の憩いの場であり続けられるよう、心から願うものである。

近久　善博

【編集委員】
委員長　桒原　五男
副委員長　岡田　光男
委　員　岸田　益雄
川村　洋樹
近久　善博
山添　純二

発行／吉野川市議会　編集／議会広報特別委員会
〒776-8611　徳島県吉野川市鴨島町鴨島 115 番地１
TEL 0883-22-2241　FAX 0883-22-2242
議会だより は再生紙を使用しています